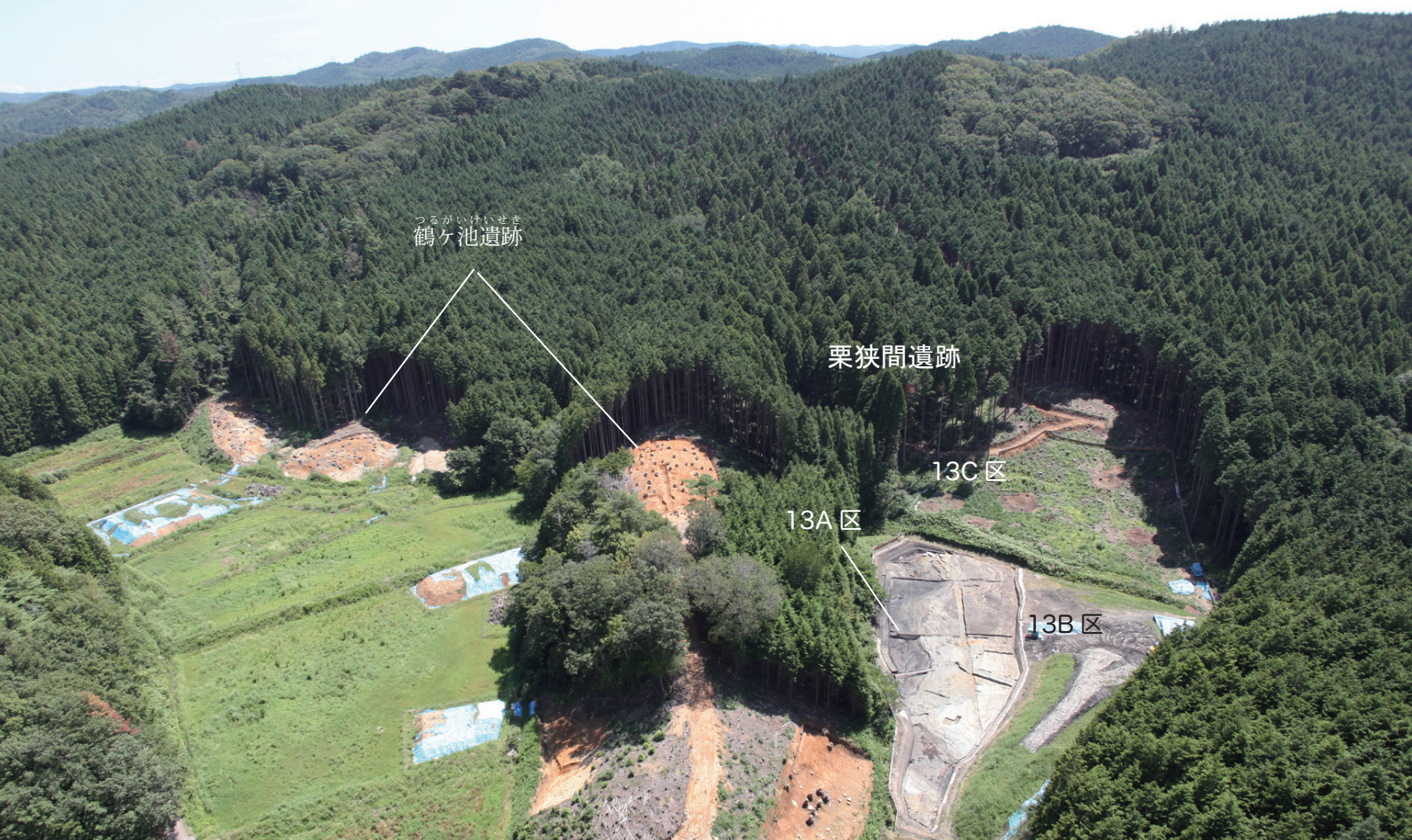


くりはざまいせき 栗狭間遺跡

2013年10月26日

愛知県埋蔵文化財センター



栗狭間遺跡と周辺の遺跡（北から撮影）



有舌尖頭器（下呂石製）



スクレイパー（凝灰岩製）

栗狭間遺跡は、^{きゅうせつき}旧石器時代、^{じょうもん}縄文時代、^{へいあん}平安時代、^{かまくら}鎌倉時代、^{えど}江戸時代にわたる^{ふくごういせき}複合遺跡です。

13A区では古い河川跡と^{なかす}中州状の地形が確認されました。遺物の多くがここから出土しています。

主なものではナイフ形石器（旧石器時代）、^{ゆうぜつせんとうき}有舌尖頭器（縄文時代草創期）、^{そうそうき}縄文土器（早期・晩期）、^{かいゆうとうき}灰釉陶器（平安時代）などがあり、そのほか河川跡を埋めている厚い^{たいせきそう}堆積層からは^{やまじやわん}山茶碗・^{こざら}小皿と加工された板材や樹木片が大量に見つかりました。

^{じゅうきよ}住居の跡や作業場所は特定できませんでしたが、上流部のごく近辺で人々が活動していたことがわかりました。



13A 区全景→
(右頁図の右端の河川跡がよくわかります)

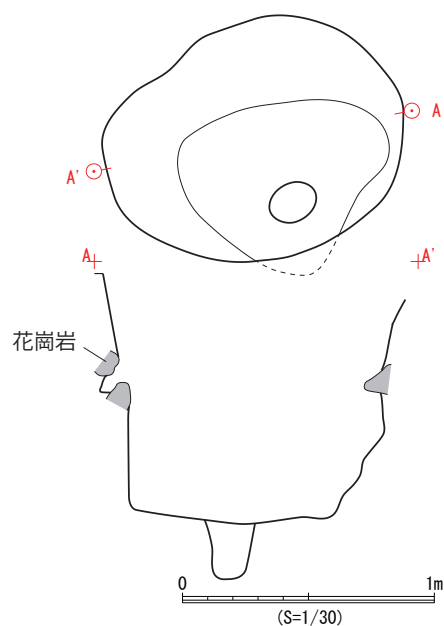


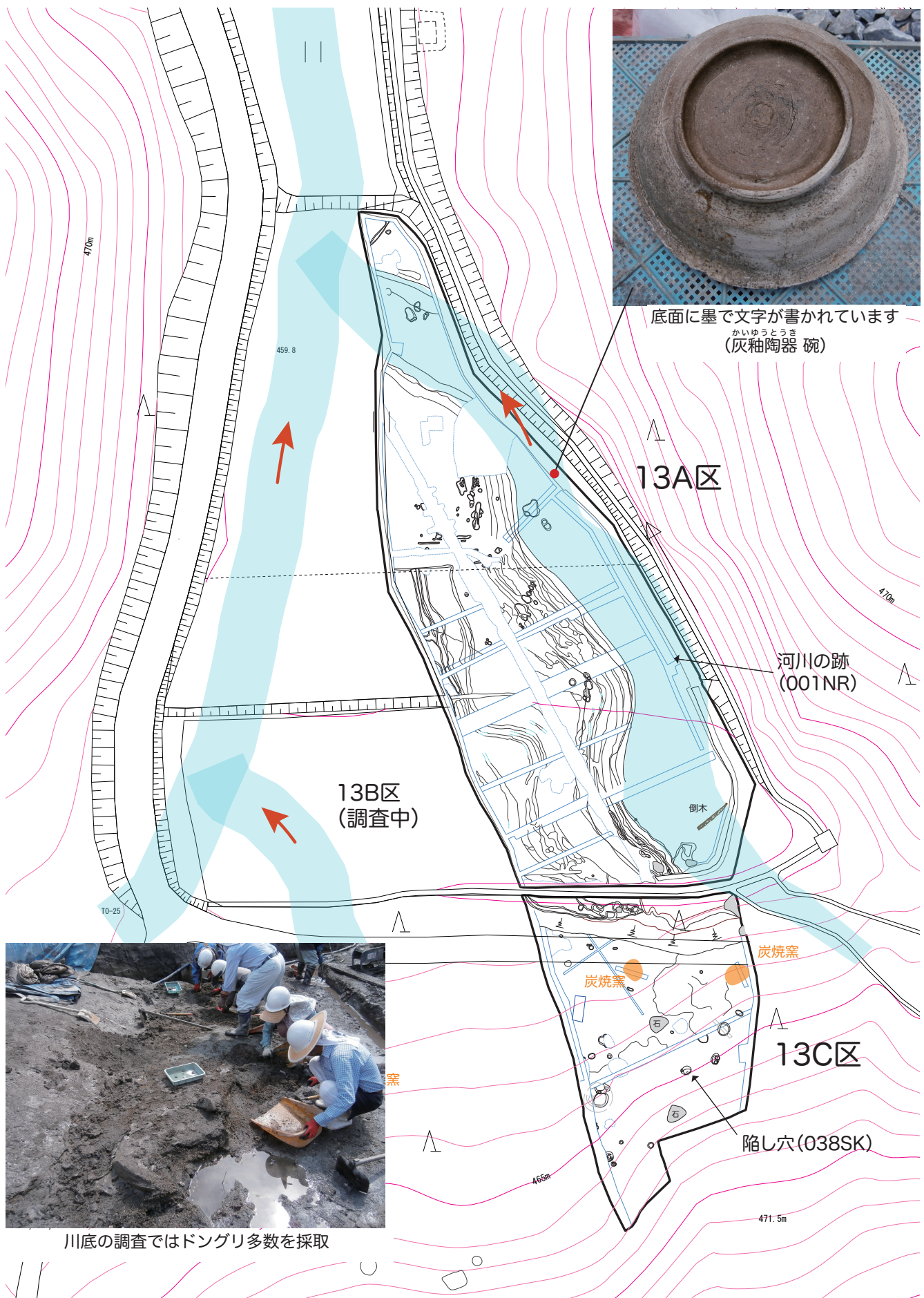
13C 区 1 面全景（北から）

13C 区は、A 区南側に接する斜面地の調査区です。近代以降の炭焼窯と、おそらく縄文時代のものと思われる陥し穴 1 基（038SK）がみつかりました。陥し穴は最大径が 1.2m、深さ 0.9m あり、本来はさらに深く大きなものであったと考えられます。



おと
陥し穴（038SK）堆積状況





栗狭間遺跡 13A 区・13C 区 (1 面) S=1/600



↑ 13A 区河川跡 作業風景（南から撮影）



河川跡（001NR）の少し上流部で、木材の製材・加工が行われたことがわかりました。どのような製品になるのかは不明ですが、スギ・ヒノキなどの針葉樹^{しんようじゅ}を材にとり、左写真のような板材や棒状^{ぼうじょう}の形状があり、一方の端を切り欠いたものなどがみられます。



栗狭間遺跡調査データ

所在地	豊田市下山田代町字栗狭間
標高	約 460m
事業名	豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業
事業者名	県企業庁 研究施設用地開発課
調査主体	愛知県埋蔵文化財センター
調査担当	鈴木正貴・武部真木・小澤一弘
支援業者	(株) 二友組
調査期間	平成 25 年 4 月～ 10 月
調査面積	3,100㎡
調査区	3 区（13A～13C 区）
主要遺構	縄文時代：陥し穴 古代・中世：自然流路 近代：炭焼窯
主要遺物	旧石器時代：ナイフ形石器 縄文時代：有舌尖頭器、石鏃、スクレイパー、磨石・叩き石、縄文土器 平安時代：灰釉陶器 鎌倉時代：山茶碗・小皿、青磁碗、加工木片、無文銭